

◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あり、血清型及び毒素型はO111 VT1で、O111は、過去9年間で4例(平成13年1例, 平成19年3例)報告されています。本年の累積報告数は、77例で、平成11年～平成19年の同時期(26～50例)と比較すると、最も多くなっています。
- ・ RSウイルス感染症の報告が3例あり、第33週から報告が続いています。本年の累積報告数は、52例で、平成16年～平成19年の同時期(5～33例)と比較すると、最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス:〈レジオネラ症〉

- ・ レジオネラ症の報告が1例あります。本年の累積報告数は、16例で、平成12年～平成19年の同時期(0～12例)と比較すると、最も多くなっています。

詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 5例(喀痰塗抹陽性 4例, 無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 285例(喀痰塗抹陽性 94例, 無症状病原体保有者 27例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O111 VT1) 1例【1月以降の累積報告数 77例】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 16例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.83	75
	② 水痘	0.41	17
	② 突発性発しん	0.41	17
	④ 手足口病	0.39	16
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

病原体情報

ありません。

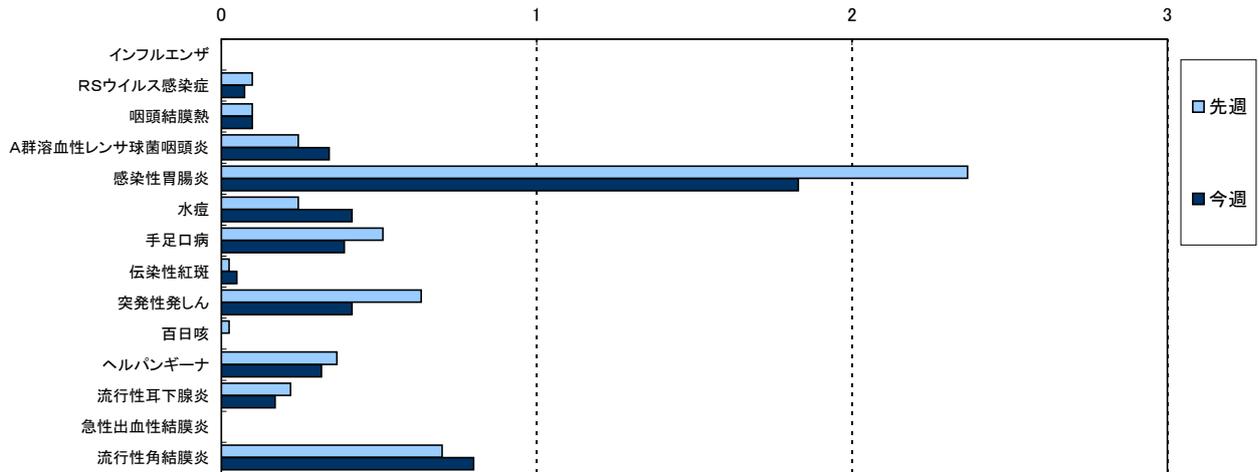
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈レジオネラ症〉

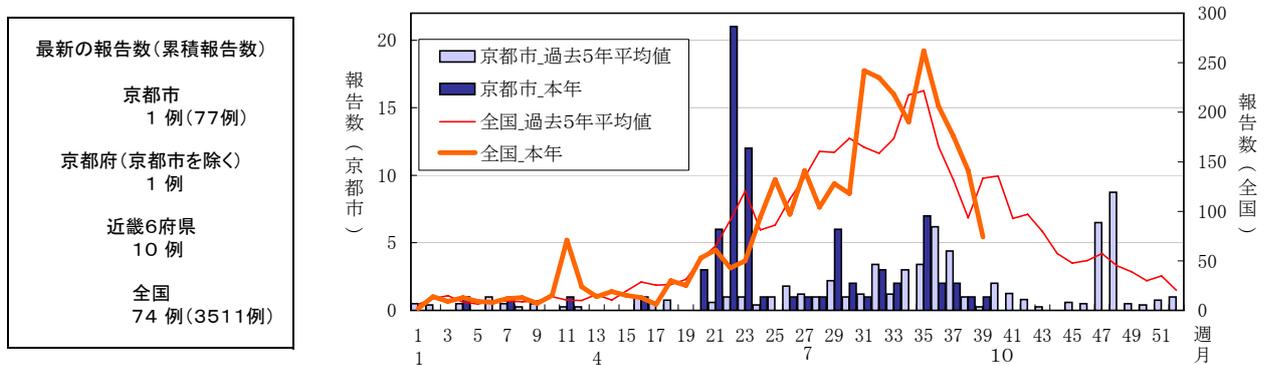
(注)京都市のデータは、平成20年10月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第39週)と先週(第38週)の定点当たり報告数の比較

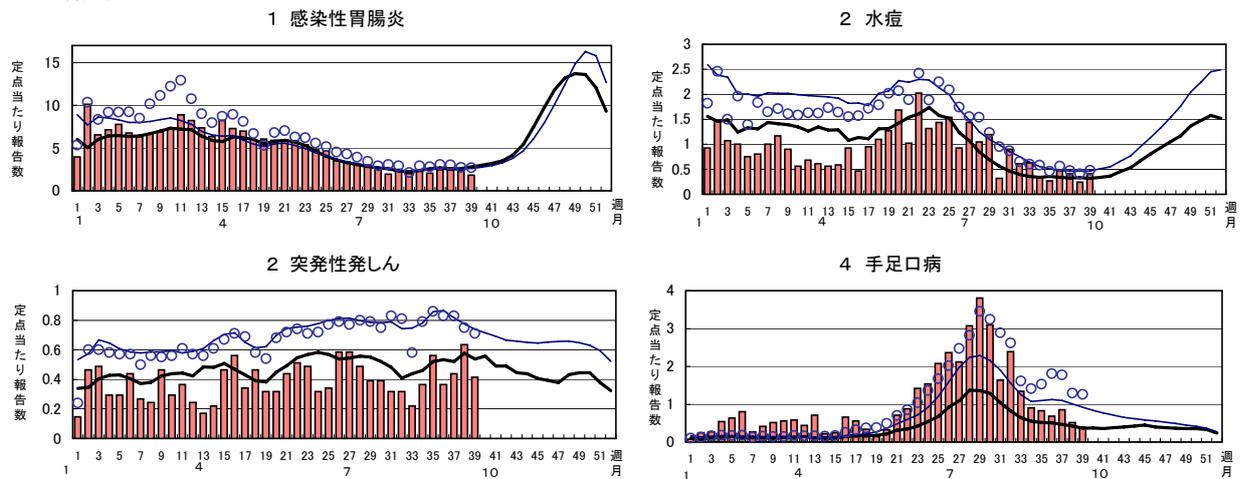


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

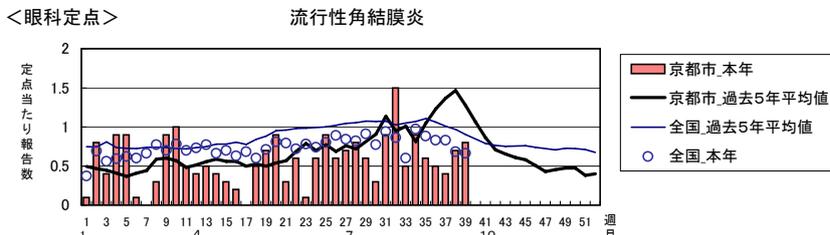


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第39週)のトピックス: <レジオネラ症>

本年の累積報告数は16例で、過去の同時期(第39週)までの累積報告数(0~12例)と比較して、最も多くなっており、全国においても同様に最も多くなっています。

診断年別月別推移をみると、本年は8月を除く、すべての月で報告があり、特に、1月が5例、3月が3例と多くなっています。

本年をみると、性別は、男性が多く、推定感染経路は、水系感染、その他が多くなっています。推定感染地域は、京都市内が9例、京都府内が6例、京都市外が1例となっています。年齢階級別では、すべて50歳以上の報告で、70歳代が6例と最も多くなっています。また、病型は、すべて肺炎型で、検査法は、すべて尿からの病原体抗原の検出です。(EIA法が2例、イムノクロマト法が14例)

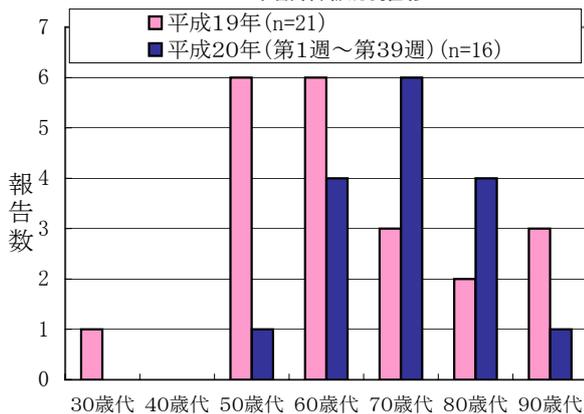
診断年別推移

	本市		全国
	年間	第1週~第39週 までの累積	年間
平成11年4月~	0	0	56
平成12年	0	0	154
平成13年	1	1	86
平成14年	2	2	167
平成15年	3	2	146
平成16年	1	1	161
平成17年	2	2	281
平成18年	8	5	518
平成19年	21	12	667
平成20年	—	16	第39週まで, 674
計	38	41	2,236

平成20年及び平成19年の詳細

		平成20年 第1週~第39週(n=16)	参考: 平成19年 (n=21)
性別	男	11	15
	女	5	6
推定 感染経路	水系感染	6	6
	塵埃感染	1	0
	土壌感染	0	1
	その他	9	1
	不明	0	13
推定 感染地域	京都市内	9	12
	京都市外	1	5
	京都府内 (市内, 市外が不明を 含む。)	6	4

年齢階級別推移



診断年別月別推移

